

令和 7 年 5 月 1 日

予察情報 7-4

病害虫発生予察情報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

5月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名		病害虫名	発生量	発生時期	作物名		病害虫名	発生量	発生時期
水稲		イネミズソウムシ	多い	やや早い	果樹	りんご	キンモンホソガ	多い	-
		イネソウムシ	多い	やや早い			アブラムシ類	並	-
		イネドロオイムシ	並	並		日本なし	黒星病	少ない	-
大麦		うどんこ病	多い	-			ナシヒメシンクイ	やや多い	-
大豆		タネバエ	並	並			ハマキムシ類	多い	-
		ネキリムシ類	多い	早い			ハダニ類	多い	早い
野菜	野菜全般	ネキリムシ類	多い	早い		ぶどう	黒とう病	少ない	-
	たまねぎ	べと病	少ない	-			灰色かび病	少ない	-
		白色疫病	少ない	-			べと病	少ない	-
	白ねぎ	ネギアザミウマ	多い	早い		もも	せん孔細菌病	やや少ない	-
							モモハモグリガ	並	早い
果樹	果樹全般	カメムシ類	多い	早い			ナシヒメシンクイ	並	-
	りんご	黒星病	少ない	-	花き 球根	チューリップ	褐色斑点病	並	-
		褐斑病	やや多い	-			球根腐敗病	やや多い	-
		うどんこ病	少ない	-			モザイク病	並	-
		ハダニ類	多い	早い			アブラムシ類	やや多い	-

発生量

多い : 平年比 141%以上
やや多い : 平年比 121%以上 140%以内
並 : 平年比 80%以上 120%以内
やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内
少ない : 平年比 59%以下

予報時期

早い : 平年値より 6 日以上早い
やや早い : 平年値より 3～5 日早い
並 : 平年値を中心として前後 2 日以内
やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い
遅い : 平年値より 6 日以上遅い

予報の根拠中の

(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少くなる要因
(早発) : 発生が早くなる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。

I 水 稲

1 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発 生 量 : **多い**
発生時期 : **やや早い**

(2) 予報の根拠

- ・前年6月5日の調査では、被害葉率が5.0%と平年(2.0%)より高く、近年は増加傾向にある(図2)。(+)
- ・気温は平年に比べ、4月上旬は高く、4月中旬はかなり高かった。(平年差: 4月上旬 +0.5℃、4月中旬 +2.3℃)。(早発)
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。(+)

(3) 防除対策

- ・前年度の発生が多くみられたほ場では確実に育苗箱施薬剤等を使用する。
- ・防除指針: 20~29、37 ページ参照



図1 イネミズゾウムシとその食害

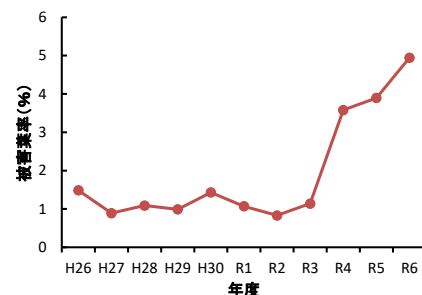


図2 イネミズゾウムシによる被害葉率の年次推移(6月5日調査)

2 イネゾウムシ

- (1) 予報内容 発 生 量 : **多い**
発生時期 : **やや早い**

(2) 予報の根拠

- ・前年6月5日の調査では、被害葉率が0.26%で平年(0.06%)より高く、近年増加傾向にある(図4)。(+)
- ・気温は平年に比べ、4月上旬は高く、4月中旬はかなり高かった。(平年差: 4月上旬 +0.5℃、4月中旬 +2.3℃)。(早発)
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。(+)

(3) 防除対策

- ・前年度の発生が多くみられたほ場では、確実に育苗箱施薬剤等を使用する。
- ・防除指針: 20~29、37 ページ参照



図3 イネゾウムシ(左)とその食害(右)

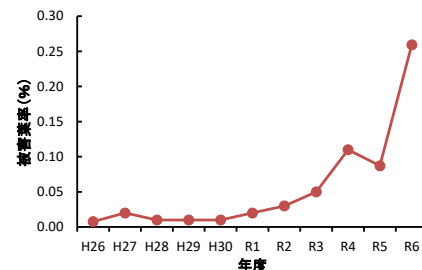


図4 イネゾウムシによる被害葉率の年次推移(6月5日調査)

3 イネドロオイムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0%で平年並（0.0%）であった。（±）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。
- （－）

(3) 防除対策

- ・前年度の発生が多くみられたほ場では、確実に育苗箱施薬剤等を使用する。
- ・防除指針：20～29、38 ページ参照



図5 イネドロオイムシの幼虫とその被害

Ⅱ 大 麦

1 うどんこ病

- (1) 予報内容 発 生 量：**多い**

(2) 予報の根拠

- ・4月25日の調査では、発病度は9.8で平年（1.8）より高かった。（＋）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。
- （＋）

(3) 防除対策

- ・防除指針：51ページ参照



図6 うどんこ病のり病葉

Ⅲ 大 豆

1 タネバエ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・5月25日にかけて降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・タネバエに登録のある種子塗沫剤を使用する。
- ・早期播種や堆肥及び緑肥施用等、有機物の多いほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
- ・ほ場の排水に努める。
- ・防除指針：54、56 ページ参照

2 ネキリムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
 発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月4～6半旬の誘殺数は53頭で平年（25.0頭）より多かった。（＋、早発）
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）

(3) 防除対策

- ・出芽後は定期的にはほ場を巡回し、食害の早期発見に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、は種予定日の一週間程前に刈り取る。
- ・防除指針：54 ページ参照



図7 粘着版で誘殺されたカブラヤガ（左）とタマナヤガ（右）

IV 野 菜

1 ネキリムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
 発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月4～6半旬の誘殺数は53頭で平年（25.0頭）より多かった。（＋、早発）
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）

(3) 防除対策

- ・出芽後は定期的にはほ場を巡回し、食害の早期発見に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、は種・定植の一週間程前に刈り取る。
- ・防除指針：62～130 ページ参照

2 たまねぎのべと病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・4月25日の調査では、発病度は0で平年（1.8）より低かった。（－）
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（－）



図8 べと病の二次伝染株（左）と病斑（右）

- ・5月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている（±）

(3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りを徹底するとともに、分生胞子の飛散による二次感染を防ぐため、薬剤による防除を実施する。
- ・防除指針：103～104ページ参照

3 たまねぎの白色疫病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・これまでの発生量は少なかった。（－）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（－）
 - ・5月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・本病は水媒伝染するため、降雨前後に防除を実施する。
 - ・防除指針：104ページ参照

4 たまねぎ・白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (1) 予報内容 発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・4月の気温は平年より高かった。（＋、早発）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・5月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・多発すると生育が遅れるため、発生初期に防除を行う。
 - ・防除指針：たまねぎ105、白ねぎ101～102ページ参照

V 果樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
 発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はかなり多かった。（＋）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（＋、早発）
- (3) 防除対策
- ・発生状況に注意し、園地への飛来がみられる
場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド系、有機リン系殺虫剤等）を散布する。
 - ・防除指針：りんご 142、145～146 ページ、日本なし 148、153、156 ページ
かき 167 ページ、もも 169、171、174 ページ



図9 チャバネアオカメムシの成虫（左）
と卵（右）

2 りんごの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。

(一)

- ・5月25日にかけての降水量はほぼ
平年並と予想されている。(±)



図10 葉の初期病斑（左）症状が進行した病斑（右）

(3) 防除対策

- ・落花直後は重要防除時期である。

降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないように注意し、雨前防除を徹底する。

- ・耐性菌出現防止のため、DMI 剤（混合剤含む）の年総使用回数は2回以内とする。

- ・防除指針：135、138～140、144～145 ページ参照

3 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。(＋)

- ・5月25日にかけての降水量はほぼ
平年並と予想されている。(±)



図11 葉の初期病斑（左）進行した病斑（右）

(3) 防除対策

- ・前年に発生の多かった園地や発生が

懸念される園地では、降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないように注意し、雨前防除を徹底する。

- ・防除指針：135、138～140、144～145 ページ参照

4 りんごのうどんこ病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(一)

- ・5月25日にかけての降水量はほぼ平年並と
予想されている。(±)



図12 うどんこ病のり病葉

(3) 防除対策

- ・り病枝、り病果（花）そうは見つけ次第せん除し、園地外に持ち出して処分する。

- ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。

- ・防除指針：135、138～140、144～145 ページ参照

5 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
 発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。（＋）
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。
（＋、早発）

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを定期的 to 実施し、下草での増殖の低減に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RAC コードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・防除指針：142～143、145～146 ページ参照

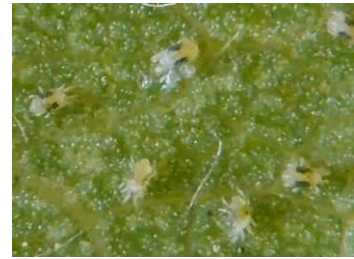


図 13 ナミハダニの成虫

6 りんごのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は3.1頭で平年（0.7頭）より多かった。（＋）
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。



図 14 キンモンホソガによる被害葉

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーAAを設置する。
- ・防除指針：135、141～142、145 ページ参照

7 りんごのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は少ない。（－）
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。
（＋）

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、速やかにネオニコチノイド系殺虫剤を散布する。
- ・防除指針：135、142、145～146 ページ参照



図 15 コブアブラムシの被害葉

8 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・5月25日にかけての降水量はほぼ
平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・芽基部病斑やり病した葉、幼果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・耐性菌出現防止のため、DMI 剤（混合剤含む）の年総使用回数は3回以内とする。
- ・防除指針：148～152、155 ページ参照



図 16 芽基部病斑（左）と葉の春型病斑（右）

9 日本なしのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は4.0頭で平年並（3.9頭）だった。(±)
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・5月中下旬の防除を徹底する。
- ・防除指針：148、152～153、156～157ページ参照

10 日本なしのハマキムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量はやや多い。(＋)
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・食害果（花）そう及び葉は、摘み取って処分する。
- ・第一世代幼虫発生時期（5月中下旬）の防除を徹底する。
- ・発生が多い園地では、ディアナ WDG（10,000 倍）を散布する。
また、5月上旬頃を目途にコンフューザーNを設置する。
- ・防除指針：148、152～153、156～157 ページ参照



図 17 ハマキムシ食害花そう

1 1 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
 発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
- ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。
(＋、早発)

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする(アカリタッチ乳剤は除く)。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・防除指針：153～154、156～157ページ参照



図 18 ニセナシサビダニの被害葉

1 2 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・5月25日にかけての降水量はほぼ
平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・り病枝やり病葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：158、160～162ページ参照



図 19 黒とう病の葉の病斑(左)と果実病斑(右)

1 3 ぶどうの灰色かび病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・5月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・新梢管理を行い棚面を明るくし、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。
- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生の多い園地では、フルピカフロアブル(2,000～3,000倍)を散布する。
- ・防除指針：158、160～162ページ参照

14 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。（－）
 - ・5月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・り病した花穂や葉などは伝染源となるため、園地外に持ち出して処分する。
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・発生が多い園地では、5月中旬のマンゼブ水和剤をリドミルゴールドMZ（1,000倍）に変更し散布する。
 - ・耐性菌出現防止のため、リドミルゴールドMZの年総使用回数は原則1回とする。
 - ・防除指針：158、160～162ページ参照

15 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量はやや少ない。（－）
 - ・5月25日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・春型枝病斑は見つけ次第せん除し、処分する。
 - ・発生が多い園地では、デランフロアブルにマイコシールド（1,500～3,000倍）又はバリダシン液剤5（500倍）を加え散布する。
 - ・防除指針：169、171、173ページ参照



図 20 せん孔細菌病の春型枝病斑

16 もものモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。（－）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（＋、早発）
- (3) 防除対策
- ・発生が多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーMMを設置する。
 - ・防除指針：169、171～172、174ページ参照

17 もものナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は0.0頭で平年（2.0頭）より少なかった。（－）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・発生の多い園地では、5月上旬頃を目途にコンフューザーMMを設置する。
 - ・防除指針：169、171～172、174ページ参照

VI 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・4月20日の予察ほ場（無防除）における‘レッドエンペラー’の発病株率（31.7%）が平年（50.7%）よりもやや低い。（－）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・殺菌剤を定期散布し、摘花直後の散布を徹底する。
 - ・防除指針：188 ページ参照



図 21 褐色斑点病の小型病斑（左）と大型病斑（右）

2 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・植え付け時（10月下旬、11月上旬）の地温が高めに推移した。（＋）
 - ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多く見られた。（＋）
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・停滞水とならないようにほ場の排水に努める。

3 チューリップのモザイク病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量が少なかった。(－)
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・モザイク病り病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類を定期的に防除する。
 - ・防除指針：189、211～212 ページ参照



図 22 チューリップモザイクウイルス (TuMV) のウイルス感染株 (左) と健全株 (右)



図 23 ユリ潜在ウイルス (LSV) のウイルス感染株 (左) と健全株 (右)

4 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・予察は場への有翅虫の初飛来日 (3月25日) は、平年 (4月16日) より早かった。(＋)
 - ・5月25日にかけて気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ほ場周辺の除草対策を徹底する。
 - ・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病り病株の抜き取りを徹底する。
 - ・防除指針：189、211～212 ページ参照



図 24 チューリップに寄生する有翅アブラムシ

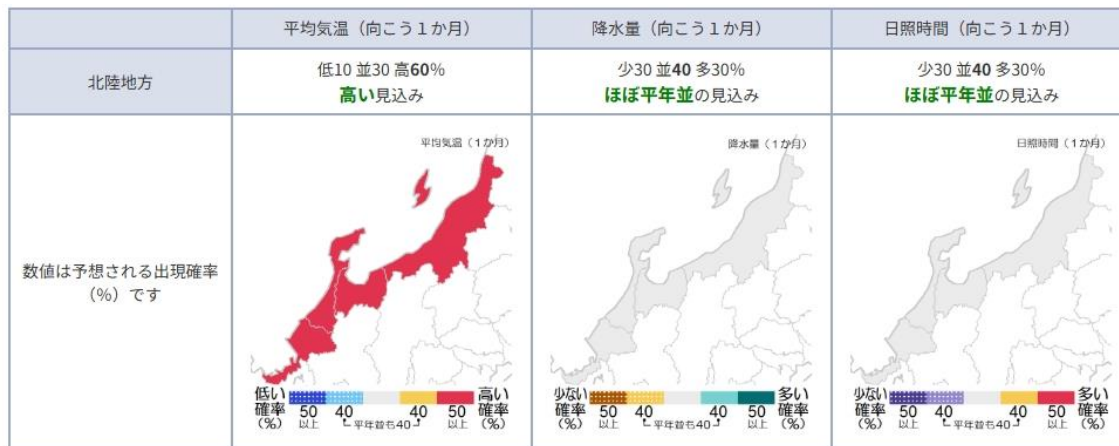
- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。 |
|---|

北陸地方 1 か月予報

4 月 24 日
新潟地方気象台 発表

<向こう 1 か月 (04/26~05/25) の天候の見通し>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多くなる見込みです。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

